

ナルニア国物語

魔術師のおい

26

C・S・ルイス

土屋京子・訳

玉樹庵・画

(光文社古典新訳文庫刊)

第26話 魔女との対決(後編)





望むものを
手に入れ

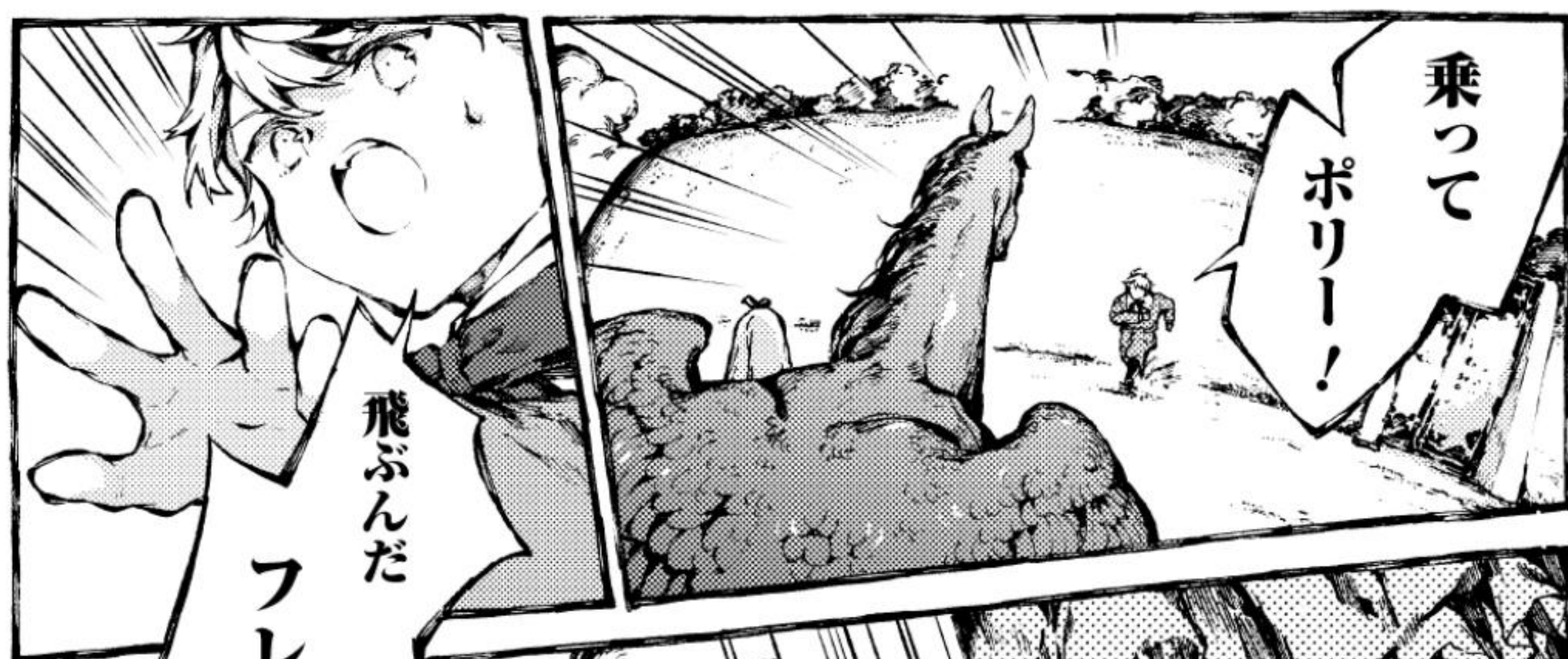
fruit
for those who steal or
Shall find their heart's

gates or not at all,
for others or forbear.
those who climb my wall
desire and find despair.

また絶望をも
見出すであろう











なぜなら
昨夜

このわらわ
だからじゃ

森でそのほうどもの
そばにひそんで
話を聞いておったのは

そちは
果樹園で
リンゴの実を
摘んだ

いま
そちのポケットに
はいつておる

その実じゃ

そして
そちはその実の味を
知ることにもなしに

かのライオンのもとへ
持ち帰ろうとしておる



あれは若さの実

生命のリンゴじや



あやつが
食らうため

あやつが
使うために

なんと
愚かなことよ！



あれが
どのような
実であるか

そちは
承知して
おるのか？



教えてやろう

わらわには
わかる

すでにして

なぜなら
自分で食して
みたからじゃ

わらわはもはや
老いることもなく

わらわのこの身が
変わりつつあるのが
感じられる

死ぬこともない

食してみよ

そちも
食してみるがよい



そして

わらわとそちは
永遠の命を得て

この天界を統べる
王と女王になるのじゃ

——あるいは

そちの世界に
もどるならば

その世界の
王と女王になろうぞ



ことわる



自分ひとりだけ
永遠に
生きたいなんて
思わない

知っている
人たちが
みんな死んで
しまったあとまで

ぼくは



ふつうの
時間だけ
生きて

死んで

天国に
行くほうがいい



ここには
わらわと
そちしかおらぬ

ライオンは
遠いところじゃ

そちの
魔術を用いて
むこうの世界に
もどるがよい

一分後には

そちは
母親の枕辺に
すわって

リンゴを食わせて
やれるだろう

五分もすれば

母親の顔に
血の気が
もどってくるのが
わかるはずじゃ

母親は

痛みが消えたと
言うにちがいない

そして
まもなく

元気が出てきたような
気がすると言うだろう

そして

母親は
眠りにつく

痛みもなく

——考えて
みるがよい

何時間も
心地よい自然の眠りを
得られるのだぞ

薬も使わず

翌日になれば

じきに

母親は
すっかり
元気になる

皆が驚くほどの
回復ぶりを
見せるであろう

何もかもが
もとどおりになる

そちの家にも
ふたたび
幸せが訪れよう



そちも

ほかの小童^{こわっぼ}どもと
同じように
なれるのじゃ

…ああ！

あの
ライオンが

そちに
何を
してくれた？

そちが奴隷に
ならねばならぬほどの
何をしてくれたと
いうのじゃ？

そちが
自分の世界に
もどって
しまえば

あのライオンに
何ができる？

それに
そちの母親が
何と思うか？

痛みをいやす
手段があったのに

命を取りもどす
手段があったのに

そちの父親にとっても
心痛をとりのぞく
手段があったというのに

そちが
それを選ばなんだと
知ったら？

それよりも
むしろ

見知らぬ世界で
何の義理もない
野獣の使い走り
するほうを
選んだと知ったら？

……

アスランは……

——アスランは
野獣なんかじゃない

アスランは……

……アスランは——

野獣で
なければ

もっと
質の悪い
ものじゃ

いま
すでに

あやつがそちに
何をしたか
考えてみるがよい

あやつが
そちをいかに
冷酷な人間にしたか
考えてみるがよい

あやつに耳を貸す者は
みなそうなるのじゃ

無慈悲で
薄情な
小童め！

そちは母親が
死んでも
かまわぬと——

黙れ！



ぼくが
そんなことぐらい
わからないと
思っているのか？

だけど
ぼくは……

——ぼくは
約束したんだ



ほう



…母さん自身が
よろこばないさ



だが

約束の中身を
承知せぬまま
約束をかわしたので
あろう？

その気に
さえなれば

ここにはそちを
邪魔だとする者は
おらぬのだぞ

母さんは

約束を守ることに
とても厳しいから……

——それに
盗んじや
いけないってことも

そういうこと
すべてに
厳しい人だから

母親に
打ちあける必要は
ないのじや

母さんこそ

もし
いまここに
いたなら

そんなことを
しちゃいけないって
最初に言うはずだ

いかにして
リングを
手に入れたかなぞ

言わずに
おけばよい

父親にも
打ちあける
必要はない

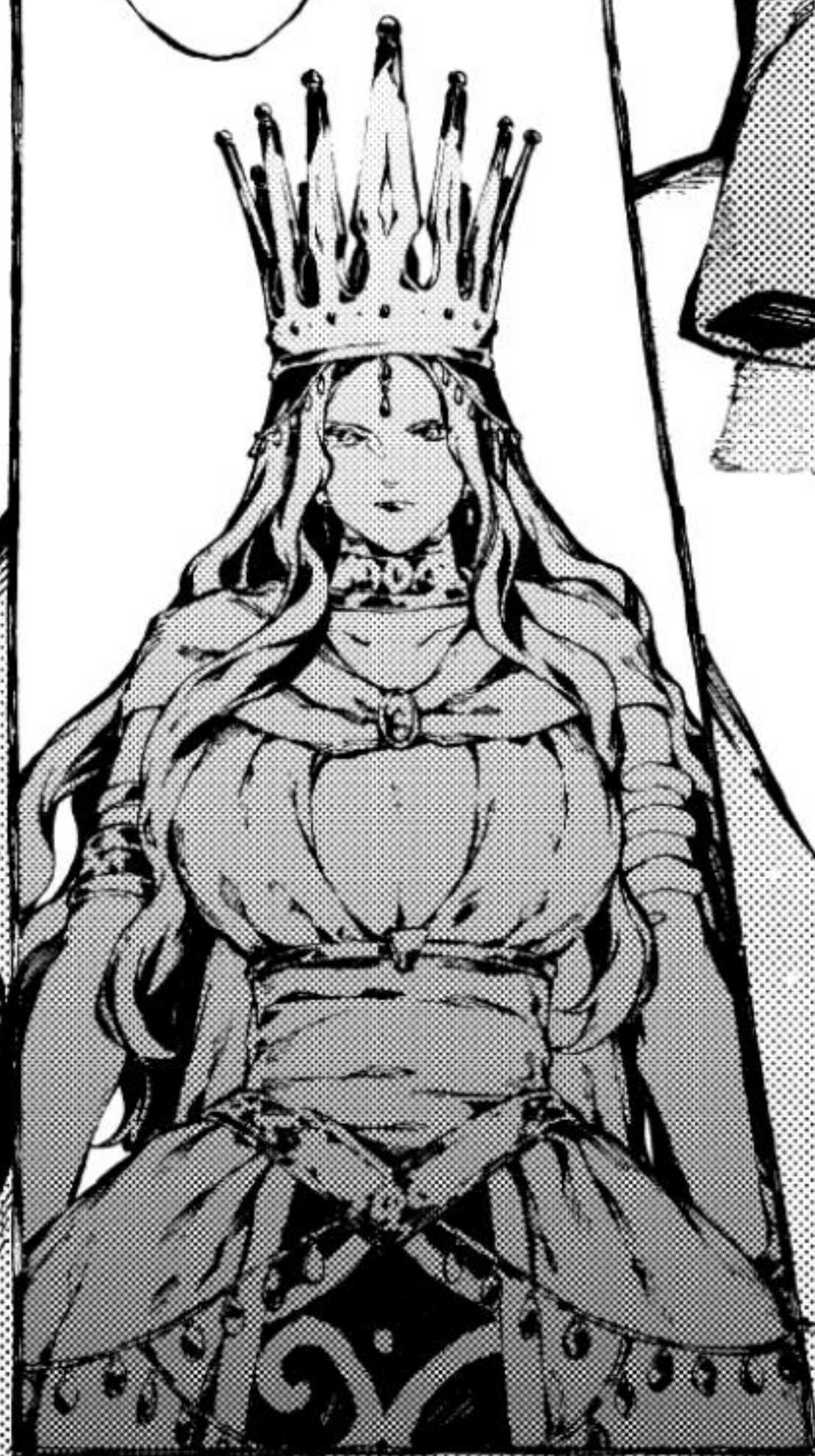
そちの
世界の誰にも
いっさい話す必要は
ないのじや





いったい
なんだって

おまえは
口をはさむんだ？



なんで
とつぜん

ぼくの
母さんのことを
そんなに
気にかけて
くれるように
なったんだ？

いったい
何をたくらんで
いるんだ？

おまえに
何の関係が
ある？

よく
言ったわ

デイゴリー



永遠の若さを
手に入れる幸運を
みすみす
捨てたことを！

もう二度と
このような幸運は
ないと思え





